

第一回目

「自分には書けることがない」と思っている人へ

普通の人でもKindle出版できる理由

「いつか自分の本を出してみたい」

そう思ったことはありませんか？

でも、その直後に、

「自分には人に教えられるような実績がない」

「文章を書くのが得意ではない」

「本を出せるのは、専門家や有名な人だけでは？」

と考えてしまい、そこで止まってしまう人は少なくありません。

実際、Kindle出版に興味を持つ方とお話ししていると、

「私なんかが本を出してもいいのでしょうか？」

という質問をよくいただきます。

そのたびに僕は、

本は、特別な人だけが出すものではありません。

とお伝えしています。

むしろ、Kindle出版では、有名な専門家が書いた本だけでなく、普通に生活してきた人の経験が誰かの役に立つことがあります。

今回は、Kindle出版に興味はあるけれど、

「自分には書けることがない」

と思っている方に向けて、普通の人でも本を出せる理由をお伝えします。

Kindle出版は、以前よりずっと身近になった

以前は、本を出版するためには出版社に企画を持ち込み、編集者に認めてもらう必要がありました。

企画が通らなければ出版できません。

そのため、本を出せるのは、

- 有名な人
- 特別な実績がある人
- 専門性の高い人
- 出版社から声がかかる人

というイメージが強くありました。

しかし、現在はAmazonのKindle出版を利用することで、個人でも電子書籍を出版できます。

もちろん、ただ文章を書けば売れるほど簡単ではありません。

それでも、以前に比べると、出版までの入口は大きく広がりました。

自分でテーマを決め、自分で原稿を書き、自分で出版する。

その気になれば、今まで出版とは縁がなかった人でも、自分の経験や考えを一冊の本として残せます。

実績がないと、本は書けないのか

本を出そうとすると、多くの人が「実績」を気にします。

たとえば、

「売上を何千万円も作った経験がない」

「会社を経営したことがない」

「何かの資格を持っているわけではない」

「SNSのフォロワーも多くない」

このように、自分に足りないものを探し始めます。

ですが、本のテーマになるものは、大きな成功体験だけではありません。

読者が知りたいのは、必ずしも華やかな成功談だけではないからです。

たとえば、

- 初めて副業に挑戦した経験
- 子育てと仕事を両立した工夫
- お金に悩みながら家計を立て直した経験
- 文章が苦手な状態から本を書いた経験
- 人間関係で悩み、考え方を変えた経験
- 病気や挫折から少しずつ立ち直った経験
- 趣味を長く続けてきた中で学んだこと

こうした経験も、十分に本のテーマになります。

なぜなら、今まさに同じことで悩んでいる人がいるからです。

あなたにとっては当たり前になったことでも、まだ経験していない人にとっては、知りたい情報かもしれません。

読者は「すごい人」だけを探しているわけではない

読者が本を手にする理由は、著者がすごいからだけではありません。

「自分の悩みをわかってくれそう」

「この人の経験なら、自分にも参考になりそう」

「難しい話ではなく、わかりやすく教えてくれそう」

そのように感じたときにも、本は選べれます。

たとえば、これから初めてKindle出版をしたい人にとって、出版歴30年の作家の話よりも、

「文章が苦手だったけれど、初めて一冊を出した人」

の話の方が参考になる場合があります。

なぜなら、読者と著者の距離が近いからです。

あまりにも遠い成功者の話は、

「この人だからできたのでは？」

と思われてしまうことがあります。

一方で、少し先を歩いている人の経験には、

「自分にもできるかもしれない」

と感じてもらいやすいのです。

あなたの失敗も、本の材料になる

本を書くというと、成功したことを書かなければならないと思われがちです。

ですが、失敗も立派な材料です。

むしろ読者にとっては、

- どこで失敗したのか
- なぜうまくいかなかったのか
- そのとき何を感じたのか
- どうやって立て直したのか
- 今なら何を変えるのか

という部分が役立つことがあります。

成功した結果だけを見せられても、読者は同じように再現できないかもしれません。

しかし、失敗した過程や迷った道筋まで書かれていれば、

「自分はここに気をつけよう」

と学べます。

あなたが過去に悩んだことは、今悩んでいる誰かの道しるべになる可能性があります。

文章が上手でなくても出版できる

「書きたいことはあるけれど、文章が苦手です」

という方も多いです。

でも、Kindle出版で大切なのは、難しい言葉や美しい表現を使うことではありません。

特にノウハウ本や体験記では、

- 読者に伝わる
- 内容が整理されている
- 具体例がある
- 最後まで読みやすい
- 読者が行動できる

ということの方が重要です。

日常会話で説明できることなら、文章にもできます。

最初からきれいな文章を書こうとしなくて大丈夫です。

まずは、自分の経験を話すように書く。

そのあとで、読みやすい形に整えていけばいいのです。

現在はAIを使って、文章の整理や言い回しの改善を手伝ってもらうこともできます。

ただし、AIにすべてを任せるのではなく、中心に置くのは、あくまでも自分の経験や考えです。

あなたにしか書けないものを出し、AIには伝わりやすくする手伝いをしてもらう。

この使い方であれば、文章に自信がない人でも、本を形にしやすくなります。

ここまでのまとめ

Kindle出版は、特別な人だけのものではありません。

大きな実績がなくても、本のテーマは見つけられます。

あなたが経験してきたこと、悩んできたこと、工夫してきたこと。

それらは、今のあなたにとっては普通でも、誰かにとっては知りたい情報かもしれません。

出版のスタート地点で必要なのは、

「自分はすごい人間だ」

と思うことではありません。

自分の経験が、誰か一人の役に立つかもしれない。

そう考えてみることです。

ここから先の有料部分では、

- どんな経験が本のテーマになるのか
- 自分の中からテーマを見つける方法
- 本にしやすいテーマと、しにくいテーマの違い
- 初心者が最初の一冊で選びやすいテーマ
- 実際に出版テーマを決めるためのワーク

を具体的に解説します。

「自分には書けることがない」と感じている方は、ここから一緒に探していきましょう。

ここから有料部分です

あなたの中にある「本の種」を見つける

本のテーマを探するとき、多くの人は新しい知識を探そうとします。

「何か勉強してからでないと書けない」

「もっと実績を作ってからにしよう」

「資格を取ってからにしよう」

そう考えて、出版を先延ばしにします。

しかし、最初に探すべきなのは、新しい知識ではありません。

まず見るべきなのは、これまでの自分です。

これまで何を経験してきたのか。

何に悩んできたのか。

どんなことを人より少し長く続けてきたのか。

どんな失敗から学んだのか。

そこに、本のテーマになる「種」があります。

本のテーマになりやすい5つの経験

自分のテーマを探ときは、次の5つに分けると見つけやすくなります。

1. 乗り越えた悩み

過去に悩んでいたけれど、今は少し改善したことです。

たとえば、

- 片づけが苦手だった
- 貯金ができなかった
- 人前で話せなかった
- 転職に踏み切れなかった
- 副業を始めるのが怖かった
- 子どもとの接し方に悩んでいた

完全に解決していなくても構いません。

以前より前に進んでいるなら、その過程は誰かの参考になります。

読者は、完璧な人の話よりも、同じ悩みを持っていた人の話に共感します。

2. 長く続けてきたこと

特別な結果が出ていなくても、長く続けてきたことには価値があります。

たとえば、

- 10年間お弁当を作っている
- 長年、接客業をしてきた
- 毎日家計簿をつけている
- 子どもの勉強を見てきた
- 趣味で写真を撮り続けている
- 地域活動をしている

続けている本人は、当たり前だと思っています。

しかし、これから始める人にとっては、その経験自体が貴重です。

長く続けた人は、

- 最初につまずくポイント
- 続けるコツ
- やらなくてよかったこと
- 初心者が勘違いしやすいこと

を知っています。

これらは、そのまま本の内容になります。

3. 人からよく相談されること

自分では普通だと思っていても、人から相談されることはありませんか？

たとえば、

- パソコンの使い方
- Canvaの使い方
- 子どもの勉強
- 家計管理
- 転職
- 人間関係
- SNSの投稿
- 料理
- 健康管理
- 旅行の準備

人からよく聞かれるということは、その分野について、あなたが「少し先を知っている」と思われているということです。

専門家でなくても構いません。

初心者にも説明できる知識があるなら、それは本のテーマ候補です。

4. お金や時間を使って学んだこと

これまでに、お金や時間を使って学んだものもテーマになります。

たとえば、

- 資格の勉強
- 副業講座
- ダイエット
- 投資
- デザイン
- 動画編集
- コーティング
- 英語学習
- 子育て
- 介護

学んだ内容をそのまま書くではありません。

大切なのは、

「実際にやってみて、どうだったか」

です。

講座で教わったことと、現実にはやってみた結果には差があります。

- 何が役立ったのか
- 何が難しかったのか
- 初心者には何から始めるのがよいか
- 途中でやめたことは何か

こうした実体験が加わることで、あなたらしい本になります。

5. 人には言いにくかった失敗

失敗は、人に見せたくないものです。

ですが、本のテーマとしては非常に価値があります。

たとえば、

- 副業でお金を失った
- SNS集客で疲れてしまった
- 高額講座を受けても成果が出なかった
- 無理な働き方で体調を崩した
- 人間関係で大きく失敗した
- 子育てで間違った対応をしてしまった

もちろん、無理にすべてを公開する必要はありません。

自分が書ける範囲で大丈夫です。

ただ、失敗の中には、これから同じ道を通る人が避けられるヒントがあります。

「こうすれば成功する」

だけでなく、

「私はここで失敗したので、あなたは気をつけてください」

という本にも、大きな価値があります。

本にしやすいテーマと、しにくいテーマ

思いついたテーマが、すべてそのまま本に向いているとは限りません。

初心者が最初の一冊を書くなら、次の条件を満たすテーマがおすすめです。

本にしやすいテーマ

- 過去の自分と同じ悩みを持つ人がいる
- 自分の具体的な経験を書ける
- 読者が読んだあとに行動できる
- 一冊で伝える範囲を絞れる
- 自分が話し続けられる内容である

たとえば、

「副業について」

では広すぎます。

一方で、

「40代会社員が、平日30分で初めての副業を始める方法」

まで絞ると、誰に向けた本なのかが見えやすくなります。

本にしにくいテーマ

- 内容が広すぎる
- 自分の経験がほとんどない
- 調べた情報だけで書こうとしている
- 誰に読んでほしいか決まっていない
- 一冊で人生のすべてを伝えようとしている

初心者ほど、たくさん入れたくなります。

「あれも伝えたい」

「これも必要では？」

と考えているうちに、内容が広がり、書けなくなります。

最初の一冊は、読者の悩みを一つに絞る方が書きやすくなります。

最初の一冊におすすめの4つの型

テーマが決まらない人は、次の4つの型から選んでみてください。

型1 初心者向けの入門書

自分がすでに経験したことを、これから始める人に教える本です。

例：

- 初めてのKindle出版
- 初めてのCanva
- 40代から始める副業
- 家計簿が続かない人のための家計管理

初心者向けは、自分が少し先を歩いていれば書けます。

型2 失敗から学んだことを伝える本

自分の失敗と、そこから得た教訓を書く本です。

例：

- 副業で失敗してわかったこと
- SNS集客で疲れた私が手放したこと

- 貯金できなかった家庭が最初に変えたこと
- 初めての出版で後悔した7つのこと

失敗談は、共感されやすく、具体的な内容になります。

型3 体験記・エッセイ

自分の経験や感情を中心に書く本です。

例：

- 初めて一人旅をした記録
- 40代で転職した話
- 子どもの不登校と向き合った日々
- 会社員を続けながら副業を始めた一年

ノウハウだけでなく、そのときの感情や変化も書けます。

型4 チェックリスト・実践ワーク型

読者が手を動かしながら進める本です。

例：

- 出版前チェックリスト
- 30日で整える家計改善ワーク
- 自分の強みを見つける質問集
- 副業を始めるための準備リスト

文章量が多くななくても、読者が使える形になっていれば価値があります。

テーマを決めるための経験棚卸しワーク

ここから、実際に自分のテーマを探してみましょう。

紙やスマートフォンのメモを用意して、次の質問に答えてください。

きれいな文章で書く必要はありません。

思いついたものを、短い言葉で書き出してください。

質問1

これまでに、どんなことで悩んできましたか？

最低5個書いてください。

例：

- お金が貯まらなかった
 - 人前で話すのが苦手だった
 - 仕事を辞めるか悩んだ
 - 子育てに自信がなかった
 - 副業が続かなかった
-

質問2

その中で、以前より少しでも改善したものは何ですか？

完全に解決していなくても構いません。

「前よりはわかるようになった」

「昔ほど困らなくなった」

というものを探してください。

質問3

人からよく聞かれることは何ですか？

家族、友人、職場の人から聞かれることを書き出します。

「これくらい誰でも知っている」

と思わずに書いてください。

質問4

5年以上続けていることは何ですか？

仕事、家事、趣味、子育て、地域活動など、何でも構いません。

長く続けていることには、必ず自分なりの工夫があります。

質問5

過去の自分に、一冊だけ本を渡せるとしたら、どんな本を渡したいですか？

この質問は、テーマ探しにとっても役立ちます。

たとえば、

「副業を始める前の自分に、怪しい話の見分け方を教えたい」

「子どもが小学生だった頃の自分に、勉強を無理にさせなくてもいいと伝えたい」

「貯金ができなかった頃の自分に、最初に見直す項目を教えたい」

この答えが、そのまま本の企画になることがあります。

3つの候補に絞る

質問に答えたら、その中からテーマ候補を3つ選びます。

選ぶ基準は、次の3つです。

1. 自分の経験を具体的に書けるか

調べた情報だけではなく、自分の失敗や工夫を書けるテーマを選びます。

2. その内容に悩んでいる人がいそうか

過去の自分と同じように悩んでいる人がいるかを考えます。

3. 一冊を書き終えるまで興味を持てそうか

需要だけで選ぶと、途中で書けなくなることがあります。

自分が話したい、伝えたいと思えるテーマも大切です。

テーマを一文にする

候補を選んだら、次の文章に当てはめます。

この本は、〇〇に悩んでいる人が、〇〇できるようになるための本です。

たとえば、

この本は、何度挑戦しても貯金が続かない40代の人が、無理なく毎月お金を残せるようになるための本です。

この本は、Kindle出版に興味はあるけれど、何から始めればいいのかわからない人が、初めての一冊を出版できるようになるための本です。

この本は、SNS発信に疲れた個人事業主が、無理のない集客方法を見つけるための本です。

この一文が作れると、本の方向性が見えやすくなります。

逆に、この文章が作れない場合は、テーマがまだ広すぎる可能性があります。

「自分には書けることがない」の正体

多くの場合、本当に書けることがないのではありません。

自分の経験を、価値として見られていないだけです。

自分が苦勞して覚えたことも、時間がたつと当たり前になります。

自分にとっての当たり前は、自分では価値に気づきにくいものです。

しかし、その当たり前をまだ知らない人がいます。

あなたが何年もかけて学んだことを、一冊にまとめる。

あなたが何度も失敗して気づいたことを、これから始める人に伝える。

それが、Kindle出版の一つの形です。

最初から大勢に読まれる本を目指さなくても構いません。

まずは、過去の自分と同じように悩んでいる一人に向けて書いてみてください。

その一人に届く内容なら、同じ悩みを持つ他の人にも届く可能性があります。

今日やること

この記事を読み終えたら、次の3つだけ実行してください。

1. 自分が過去に悩んだことを5個書く
2. 人からよく聞かれることを3個書く
3. 本にできそうなテーマを3つ選ぶ

まだ、一つに決めなくても大丈夫です。

まずは、自分の中にどんな経験があるのかを見える形にすることが最初の一步です。

最後に

Kindle出版に必要なのは、特別な肩書きではありません。

誰かに伝えたい経験があること。

過去の自分と同じように悩んでいる人を助けたいと思うこと。

そして、完璧でなくても一歩ずつ形にしていくこと。

それだけでも、出版を始める理由になります。

「自分には書けることがない」

と思っていた方も、今回のワークを行うことで、いくつかの候補が見つかったのではないのでしょうか。

次回は、Kindle出版を思いつきだけで始めて途中で止まらないために、出版までの全体的な流れを解説します。

テーマ決めから原稿、表紙、Amazonへの登録まで、初心者が何をどの順番で進めればいいのかを、わかりやすく整理していきます。